

市立図書館と学校図書館との連携のあり方について

平成 2 1 年 1 月

名古屋市図書館協議会

目 次

はじめに.....	1
名古屋市図書館と学校・学校図書館との連携事業の現状.....	4
名古屋市図書館と学校・学校図書館との連携の問題点と課題.....	9
これからの連携のあり方について.....	10
終わりに.....	14

はじめに

1 子どもの読書活動推進と図書館間連携

近年の我が国の政策の一つに、子どもを対象とした読書活動の推進が挙げられています。

読書活動の推進を担う施設である公共図書館や学校図書館は、それぞれ独自に事業・サービスを行なうだけでなく、お互いが連携し事業を進めることとされています。図書館の連携については、

まず「図書館法」(昭和25年4月30日公布)に

第3条 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

(中略)

四．他の図書館、国立国会図書館、地方公共団体の議会に附置する図書室及び学校に附属する図書館又は図書室と緊密に連絡し、協力し、図書館資料の相互貸借を行うこと。

(中略)

九．学校、博物館、公民館、研究所等と緊密に連絡し、協力すること。

「学校図書館法」(昭和28年8月8日公布)に

第4条 学校は、おおむね左の各号に掲げるような方法によって、学校図書館を児童又は生徒及び教員の利用に供するものとする。

(中略)

五．他の学校の学校図書館、図書館、博物館、公民館等と緊密に連絡し、及び協力すること。

と定められています。

平成13年12月12日に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布されました。同法では、国や地方公共団体の責務や保護者の役割が述べられています。

その第7条では、

第7条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

としています。

また、この法制定を受けて、平成１４年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定されました。

その中で、「３ 図書館間協力等の推進」には、

(1) 図書館間等の連携・協力

ア 子どもの読書活動を一層推進していくためには、図書館と学校図書館とが連携・協力を行うことが重要である。このため、図書館の図書の学校図書館への団体貸出しや図書館職員が学校を訪問し、あるいは児童生徒が図書館を訪問して、読み聞かせを行うなどの取組を促していく。

イ また、図書館間での連携・協力を進めるため、児童図書等資料の相互貸借や複数の図書館で協力して行うレファレンスサービスの実施等の取組を促していく。

とあります。

平成２０年には「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」が策定され、その中でも同様の主旨が述べられています。

また、平成２０年５月の「社会教育法等の一部を改正する法律」で、国及び地方公共団体が社会教育に関する任務を行うに当たっての配慮事項として、社会教育が学校、家庭及び地域住民その他の関係者相互間の連携及び協力の推進に資することとなるように努めることが追加されました。

さらに、衆議院文部科学委員会による「社会教育法等の一部を改正する法律案に対する附帯決議」には、

政府及び関係者は、本法の施行に当たり、次の事項について特段の配慮をすべきである。（中略）

５．地域における教育力の向上のため、学校、家庭、地域等の関係者・関係機関の連携を推進し、各施設資料の相互利用や人材の相互活用などを図るとともに、多様な地域の課題等に応じた機能を持つネットワークの構築を推進すること。

なお、その際、学校、家庭、地域の連携を推進する上で重要な役割を果たすＰＴＡについて、その活動や運営などの実態把握に努め、「学校支援地域本部事業」における連携が円滑に進むよう十分配慮すること。

とされ、同様の決議が、６月の参議院でもされました。

この中では、連携の促進はもとより、「地域の課題等に応じた機能を持つネットワーク」作りという、より一歩進んだ行政サービスが必要とされています。

2 名古屋市図書館協議会における検討

当協議会においても、平成17年1月に「子どもの読書活動の推進について」と題して図書館の役割を検討した結果を取りまとめました。その中で、

学校は教育機関として、子どもの読書活動を推進し、読書習慣を形成していくうえで、大きな役割を担っている。このような役割を持つ学校との連携については、図書館にとって重要な位置づけをしていくべきものである。

とし、団体貸出しのPRや利用の拡充、読書活動への積極的なサポートなど、学校との連携の取り組みをより拡充する必要があると提言しています。

3 名古屋市における読書活動推進計画

このような一連の政策の中で、名古屋市においては「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受け、平成19年4月に「名古屋市子ども読書活動推進計画～読書でふくらむ子どもの夢～」が策定されています。

その第1章である「子どもの読書活動の意義と計画推進の基本方針」においては、

1 子どもの読書活動の意義

(2) 策定の経緯

家庭・地域・図書館・学校や関係機関がそれぞれ連携・協力し、さまざまな読書の機会や場を提供し、読書に取り組みやすい環境や仕組みづくりに努めます。

と定め、その方策として、

学校図書館と図書館の連携

図書館と連携し、学校図書館に、図書館の蔵書が検索できる端末を整備していきます。また、学校の図書の充実のため学校図書館と図書館とのネットワーク化による蔵書の効果的な活用といった連携方法の研究を進めます。

と、提案しています。

上記の計画や提案がなされ、次章でご紹介するようにいくつかの取り組みが進められた結果、一定の成果は得られているものと思われます。しかしながら同時に、いまだ不十分と思われる部分も見受けられます。

名古屋市図書館と学校・学校図書館との連携事業の現状

名古屋市図書館では、従前から学校・学校図書館との連携事業を進めてきました。

その事業内容は、

- (1) 学校訪問
- (2) 図書館訪問
- (3) 職場体験学習
- (4) 団体貸出
- (5) 名古屋市児童図書選定協議会
- (6) 子ども図書館大使
- (7) なごやっ子のおすすめ 100 冊 (小学生版)

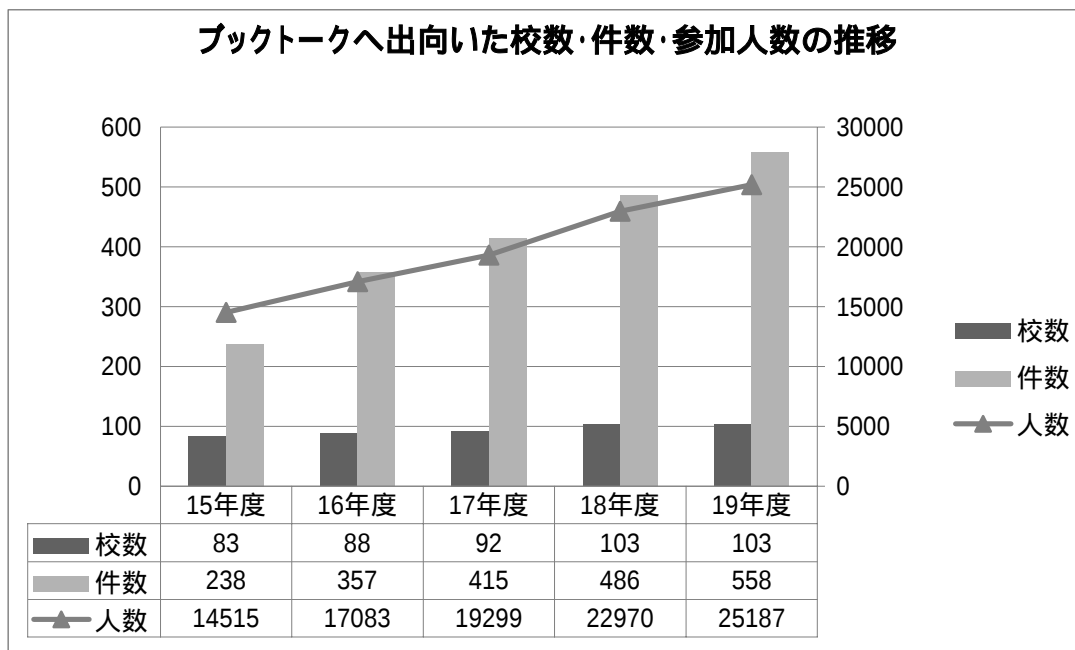
などがあげられます。

(1) 学校訪問

学校訪問とは、図書館司書が学校の求めに応じて出向き、読書活動推進に係わる事業を行うものです。主に低学年にはおはなし会 (絵本等の読み聞かせ) 中高学年にはブックトーク (テーマに沿って本等の紹介をする) を行います。

この事業は平成 15 年度より「その道の達人事業」に組み込まれています。

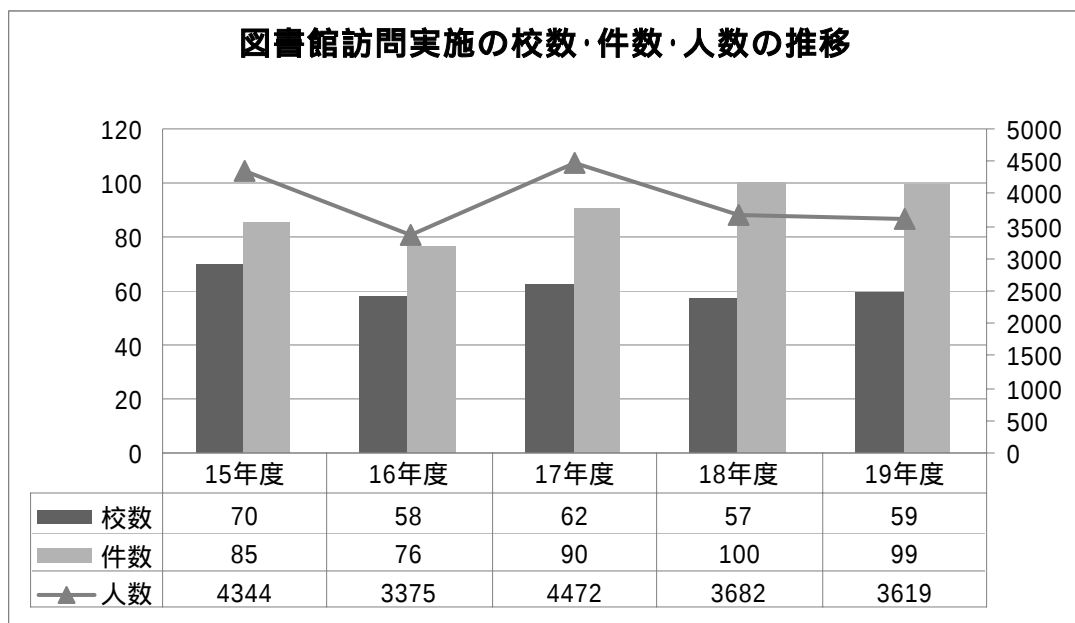
平成 19 年度には 103 校に出向き、25,187 人が参加しました。



(2) 図書館訪問

図書館訪問とは、学校から図書館の見学や調べ学習の目的をもって図書館を訪れるもので、学校の求めに応じて、館内見学ツアーや読み聞かせなどを行う場合があります。

平成 1 9 年度においては 5 9 校、 3 , 6 1 9 人の訪問がありました。

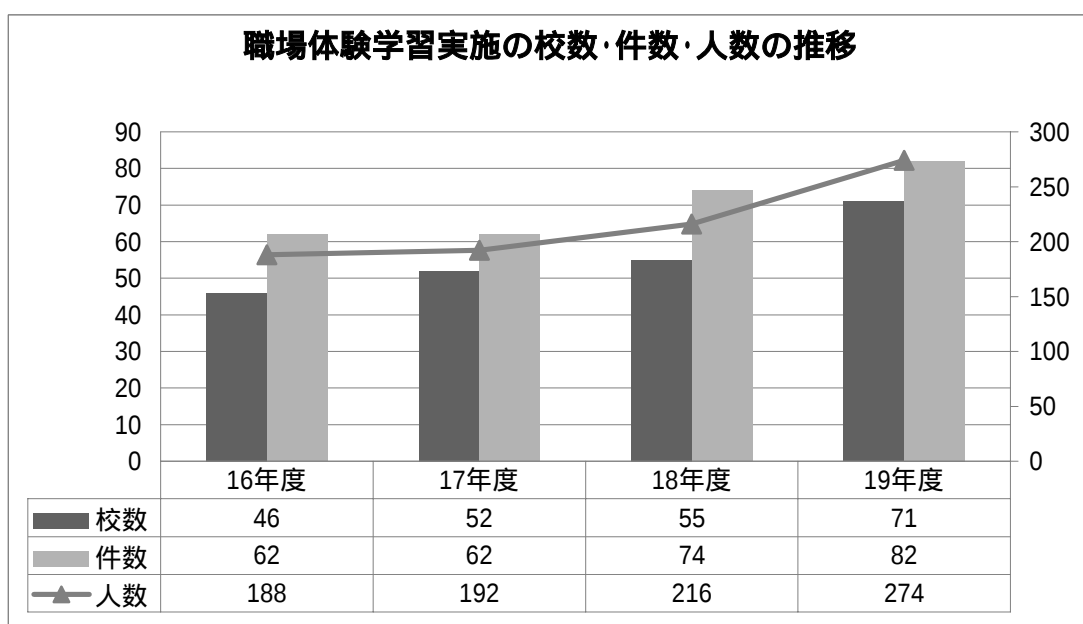


(3) 職場体験学習

職場体験学習は、学校が主体として行う事業です。図書館も就業体験の場として、主として中学生を受け入れ、図書館の仕事を実際に体験してもらっています。

同時にこの体験が、図書館を身近に感じる機会にもなっています。

平成 1 9 年度においては 7 1 校、 2 7 4 人の参加がありました。



(4) 団体貸出

団体貸出とは、学校やボランティアなどの団体を対象にした貸出です。学校への貸出は最大300冊3ヶ月間の貸出を行います。

主に調べ学習に利用する資料や授業に必要な資料の貸出を行います。

平成19年度は、小中学校あわせて113校が674回利用しました。

(5) 名古屋市児童図書選定協議会

名古屋市児童図書選定協議会は、昭和31年に発足し、学校長、教諭、有識者、図書館司書で構成され、小中学校向けの図書の選定、その普及に関することを審議します。

平成19年度には11回の選定会を開催し、「選定児童図書目録(平成19年版)」を発行しました。

名古屋市の子ども読書活動推進事業の一環として

(6) 子ども図書館大使

平成19年度より、市内の小学生16名を子ども図書館大使に任命し、図書館の裏側探検やおはなし会での読み聞かせの実演などを行い、学校に戻って図書館の様子などを伝えてもらい、名古屋市図書館と学校との架け橋となってもらっています。

(7) なごやっ子のおすすめ100冊(小学生版)

平成20年度より「なごやっ子のおすすめ100冊」選定作業が始められました。

対象は小学生向きとし、学校と図書館で応募を受付、子どもたちがおもしろかった本や友達にすすめたい本を募集しました。

現在、教諭や図書館司書などで選定作業を行っており、平成21年4月には、冊子として発表、配布される予定です。

これ以外に、学校図書館主任者会議への参加や図書館ホームページで「学校の先生へ」を設け、図書館の活用方法の案内も行っています。

協議会では、名古屋市の小中学校における図書館活動の調査・研究のため、西区の浮野小学校（平成20年1月17日）と天白区の久方中学校（平成20年9月18日）を訪問しました。

名古屋市立浮野小学校、久方中学校の訪問

○浮野小学校（6学級、児童数148人、西区）

浮野小学校では、「本へのきっかけ（ブックトークや読み聞かせ）」「本への自覚（朝の読書タイム、総合的な学習の時間）」「本と触れ合う場所（いつでも手にすることができる読書環境づくり）」を三つの柱に読書活動に取り組んでおられます。

読書活動は、週3日の朝の読書タイム、総合的な学習の時間や国語の時間を活用して行われており、継続した取り組みによって静かに読書をする習慣が育まれ、次第に学校生活にも落ち着きができて本好きな児童が増えてきたとのこと。

朝の読書タイムは、低学年では読み聞かせから始め、高学年になる頃には自分で本を選び進んで読書をするようになります。学年ごとに工夫をこらした活動がされており、読書を日常の中で楽しむ雰囲気をつくり生活の中で読書に親しむように指導されています。活動内容としては、好きなお話の発表や友達への本の紹介、異学年間での読み聞かせ、読書カードに読んだ本のページを記録して読書量を増やし励みとすることや読書座談会の実施など児童の年齢や発達段階に合わせて、意欲的に読書に取り組む手立てが講じられています。

また、「図書館だより」で新しく入った本の紹介や授業参観で児童による読み聞かせの見学、読書アンケートをして家庭での児童の様子を聞くなど保護者への働きかけを行うことで、その理解と協力が得られるようになってきたとのこと。

この他、図書館の利用促進のため、地域の方や保護者ボランティアの力を借りながら、図書室のカーテンをレースに取替えたり、入ってみたいくなるようなワクワクする飾り付けをするなど図書室の環境整備にも力を入れています。

教職員は、全員で読書活動について話し合い、図書館の蔵書は実際に本を見て購入したり、学校図書館にある本を中心に、子どもたちに読んで欲しい本「浮野70選」を選定して児童に知らせたり、本の表紙が見えるように展示を工夫したコーナーを設けるなどしています。

学校を訪問して感動したことは、先生方の指導の細やかな心遣いやボランティアの方の協力によって、年齢とともに子どもたちが本を好きになり自発的に読書に親しむようになること。そして、十分な読み聞かせが自ら読もうとする心を育てるということが良く分り、継続的な活動の大きな成果を実感できました。先生から朝の読書タイムが子どもの心に落ち着きをもたらすと伺いました。これからも本が子どもたちに良い言葉や思いやりの心、読む力や聞く力を運んでくれることを願っています。

こうしたノウハウを他の小学校に広げていけば素晴らしい効果が上がるのではないのでしょうか。

なお、学校からの期待として、大型絵本や高額な資料を名古屋市図書館から借りられるような連携を挙げられました。

○久方中学校（12 学級、生徒数 411 人、天白区）

久方中学校では、平成 20 年度の努力点を「豊かな心をもった生徒の育成～想像力とコミュニケーション力の育成をめざして～」とし、職員共通理解のもと日々取組んでおられます。その手立てとして、朝の読書や読み聞かせ週間などの読書活動を行っています。

読書活動推進のための取り組みとして、読み聞かせを PTA 総会で保護者に行い理解と協力を求めたり、道徳の時間に校内放送で行ったり、読書週間に全校集会で校長が生徒・職員を対象に行っています。

なかでも、6 月の読み聞かせ週間では、担任や学年職員が朝の会で 5 日間にわたり各自が選んだ本の読み聞かせを行っています。学年だよりでは、「先生たちの語り声の響く静かな朝のひと時は、穏やかな一日のスタートとなったようです。」とその様子を伝えています。図書委員会の事後アンケートでの生徒の感想は、先生が絵本を読むことの新鮮さや先生への感謝の気持ち、お話を聞く楽しさや本への共感が見られます。

このほか、三年生の選択授業で、学区の小学校へ出かけ読み聞かせを行っています。

学校図書館の運営については、人がいる図書館、毎日開いている図書館をめざして学校図書館ボランティアを毎年募集し、登録者が交代で授業後（午後 1 時半～4 時）の開館を支えています。常に開いていることから利用が増え部活開始までの学習の場としても利用されており、ボランティアと生徒の良い関係も築かれています。

学校を訪問してまず感心したことは、校内が非常にきれいで整理整頓されて全体的に温かみがあり、掲示物を見ても学校全体の落ち着きが伝わってくることでした。図書館活動が実を結んできたのだと思います。地域の方とも連携していく時代であり地域力を学校に集約することの大切さも感じました。中学校にあがると読み聞かせをしないと思っていたのですが、校長先生はじめ全校で読み聞かせをされていることが新鮮な驚きでした。読み聞かせが自分で読むことへのきっかけになり、いくつになっても必要で大切なことだということが分かりました。

活字離れが問題行動に繋がるのではないかと先生の話を伺いました。久方中学校では先生が本を読んでくれることで生徒は愛されていると感じ、先生自身も嬉しそうに取り組むことで生徒に伝わるものがあり、本を読んでもらうことで人と人とのつながりが生まれると感じました。

思春期で心の揺れ動くときの中学生にとって読書をすることは、自己観察するために良いことと思います。その読書の手助けとなる図書室にはいろいろなタイプの本があり良く選書されており大変刺激を受けました。

また、ボランティアについても学校の活動に積極的に活用することは良いことであり、友達のお母さんが来ているだけで子どもは嬉しいものです。学校の方針でコミュニケーションを重視しておられることは、正しい方向であり基本であることを改めて確認できました。

なお、学校からは、連携の期待として、児童図書選定協議会の選定目録を資料の購入に役立っているのを、会の継続発展を挙げられました。

名古屋市図書館と学校・学校図書館との連携の問題点と課題

名古屋市図書館では、先に述べたような連携事業に取り組んできました。

しかし、現状では、様々な問題点や課題があります。

(1) 学校訪問・図書館訪問・職場体験学習

現在行っている学校訪問、図書館訪問や職場体験学習の活動も、その受け入れ態勢や内容を、図書館と学校双方で再検討し、さらに充実にしたものにしていくことが必要です。

(2) 団体貸出

必要とされる資料は、団体貸出という制度があり、学校・学校図書館は名古屋市図書館から借受けることができますが、その運搬は、原則的に学校側の負担となります。

現実には授業時間の合間での運搬となり、学校の負担も大きくなっています。

負担の軽減のため、資料の搬送方法を検討する必要があります。

また、学校や学校図書館からのリクエストに応えられるような資料の確保が必要です。

(3) 名古屋市児童図書選定協議会

名古屋市児童図書選定協議会においては、93冊の図書を選定し、「選定児童図書目録(平成19年版)」の発行を行いました。その配布にとどまり、紹介された資料のPRが十分行うことができず、書評の活用方法を示すことができていません。

(4) 中学生への働きかけ

「学校図書館の現状に関する調査」(文部科学省)において、市立の小学校では、39校(53%)が団体貸出や学校訪問の名古屋市図書館との連携を行っているという調査結果ですが、中学校では11校(10%)にとどまっています。

読書離れが進む世代への取組みが求められています。

(5) インターネットの活用

名古屋市図書館の資料の所蔵状況は一部を除きインターネットで検索ができるようになっています。

図書室にインターネットに接続できる環境があれば、学校にない資料をその場で検索することができ、その資料の情報を簡単に知ることができます。

しかしながら、小中学校の図書室においてインターネット接続が可能な校数は、小学校36校(14%)、中学校5校(5%)の計41校であり、環境整備が必要です。

これからの連携のあり方について

連携とは、図書館利用者としての児童・生徒を育成するために館種を越えて、共に学びの条件を整備し、支援していくものと考えます。

連絡を取り合って協力し物事を行なうことで、相互に補完しあうだけでなく、機能の強化にもつながります。

現在の子どもの読書活動をより充実したものにするべきことはもちろんのこと、上手に図書館を使いこなす方法を身につけることのほか、多様な情報を有する場所という図書館機能を理解し、的確に必要な情報を取得するための能力を養うことで、学校図書館の優れた利用者というだけでなく、情報化社会を生き抜く力を身につけることができます。

そうした考えに基づき、これからの連携のあり方について考えていきます。

(1) 人の連携を組織する

学校図書館と公共図書館では、その活動や資料内容に様々な違いがあります。

まず、そこで働く者同士の情報交換、交流の場を設け、その活動内容や組織を理解することが連携への第一歩だと考えます。

個人の連携でなく、組織として連携の場を設けることによって、連携事業を継続的に進めることができると考えます。

また、学校図書館運営における様々な課題（資料の収集や配架方法など）の解決を、名古屋市図書館の司書と共に目指す仕組みづくりを検討することが必要です。

< 事業展開 >

- 人の連携の組織化
 - ・ 現在各区で開催されている学校図書館主任者会議や学校図書館関連の会議・研修会へ、名古屋市図書館司書が参加し、情報交換をはかり、共同事業などを企画運営していく。
- インターネットの活用
 - ・ 現在の名古屋市図書館ホームページ「学校の先生へ」をさらに充実させ、手続きの紹介にとどまらず、学校・学校図書館からの様々な意見を取り入れ、情報の発信の場とする。更には双方向の情報のやりとりが可能な仕組みの構築の検討をする。
- 名古屋市児童図書選定協議会
 - ・ 現在教員と司書の共同事業として行っている児童図書選定協議会の活動をより広く理解してもらえよう、名古屋市図書館のホームページに書評を含む全文を掲載し、その内容のPRに努める。

- ・選定された図書は対象毎に必要な数を用意し、学校図書館への貸出を行う。
 - 学校訪問・図書館訪問・職場体験学習
 - ・現在行っている学校訪問活動をさらに進め、中学校と連携を強めるとともに訪問を希望する学校に十分応えられる仕組みをつくる。
 - ・社会見学や総合的な学習時間での図書館訪問は、児童生徒が図書館で感激したり楽しさを感じられることにも留意して、その内容を再検討し、読書の楽しさを知らせるものから、情報を検索する能力を高めるものまで多様な選択肢を用意する。
- また、中・高校生を対象としている職場体験学習の活動について、有意義なものとなるよう内容の充実を図る。
- 子ども図書館大使
 - ・子ども図書館大使は、その人数を増やして事業を拡げ、大使や学校が相互に交流し、読書の楽しさや魅力を伝えていけるように充実を図る。それにより児童が図書館を身近に感じ、読書への興味を深められるようにする。

(2) 資料を共有化する

公共図書館においては、いまや他の図書館からの相互貸借による資料の提供は一般的なものとなっています。

それには、所蔵情報のデータ化とホームページ等での公開、また県内での総合目録の構築が大きく貢献しました。

また、図書館間の物流システムの構築が、資料の搬送を簡易で安価なものとなりました。

学校図書館との連携においても、今後、学校図書館での資料のデータ化を進め、お互いに所在情報を提供しあうことが必要と考えます。

その上で、物流システムを構築し、資料の相互利用を進めていきます。

また、名古屋市図書館における学校や学区で発行する出版物の収集について、学校図書館の協力を得て積極的に行っていかなければなりません。

< 事業展開 >

- 情報化の推進
- ・学校図書館の資料のデータ化、ネットワーク化には、名古屋市図書館が培ってきたデータ作成やネットワーク構築のノウハウを提供し、協力していく。
- インターネットの活用
- ・名古屋市図書館ではインターネットを利用した予約の受付を検討している。学校図書館のインターネット接続環境の整備を促し、このサービスを学校図書館にも拡大して、簡単に学校図書館から名古屋市図書館の資料を予約できるようにする。

- ・インターネットの活用を進めるうえでは、名古屋市図書館ホームページの「こどもページ」へのアクセスを容易なものとするための親しみやすいショートカットアイコンを学校のパソコンのデスクトップに作っておくなど、児童生徒の興味を引く工夫が必要である。「子どもページ」の魅力アップを図り、アイコンの作成と活用方法の提案を図書館で行っていく。
- 資料の充実
 - ・学校図書館の必要とする資料の実態を把握し、より効果的な提供のために、学校図書館支援のための蔵書を充実させる。具体的には、学校図書館で所蔵しにくい比較的高額な資料や大部な資料（例えば、大型絵本など）を名古屋市図書館で所蔵していく。
- 物流システムの確立
 - ・現在の利用状況を把握・分析した上で、宅配便の利用を含め物流方法の検討を行い、学校図書館間や名古屋市図書館と学校図書館間での安価で効率的な物流システムを確立していく。

（３）情報の共有と蓄積と公開

それぞれの図書館に関する情報から、資料の所在情報、相談業務での回答など、図書館で扱う情報は、多岐にわたります。

それらの情報を整理し、相互に利用できるものとして蓄積していくことが必要です。

また蓄積した情報は、学校図書館や市立図書館内だけの情報とはせず、活動の市民へのPRという観点から、ホームページ等を活用し、広く市民に提供していくことが必要と考えます。

< 事業展開 >

- インターネットの活用
 - ・学校で必要とされる資料の問い合わせや相談には、電話をはじめインターネットでも応じられる体制を整える。問い合わせ内容や相談内容は、回答と共に蓄積し、ホームページ等で公開し、より活用しやすいものとする。また、学校図書館で受けた問い合わせや相談についても、同じように蓄積し公開していく。
 - ・色々な学校図書館の状況を簡単に見ることができるよう名古屋市図書館のホームページで各学校図書館へのリンクを作成し、生徒や教師だけでなく、市民への各学校における読書活動の理解の窓口としていく。それにより情報が共有されることになり、相互理解がすすみ、お互いを高め、さらなる発展に繋げていくことができる。

- ・名古屋市図書館のホームページを充実させ、児童・生徒にも親しみやすいものとしていく。
- ・「なごやっ子のおすすめ１００冊」(小学生版)を名古屋市図書館ホームページに掲載し、子どもの視点からの本の魅力を紹介していく。
- 資料の充実
- ・調べ学習などで必要とされる資料の内容を事前に提供してもらい、リスト等を作成し、学校へ提供していく。
また、学校からは授業内容などの情報の提供を受け、必要な資料の収集の参考としていく。
- 中学生への働きかけ
- ・読書離れの進む中学生には、中学生向きお奨め本リストを作成し、各学校図書館へ配布していく。またメールマガジンなどを活用し、最新の情報を学校図書館や個人に配信する。
- ・学校図書館では、お奨め本リストやその書評、メールマガジンを利用して生徒に本に関する案内など読書に関する情報を日常的に提供し、自主的かつ積極的な読書活動を促していく。

終わりに

図書館において「連携」という言葉が、キーワードとなって久しくなります。

厳しい財政状況の中、図書館の資料購入費の減少、図書館を利用する人の情報に対する要求の多種多様化など、一つの図書館で応えていくことが困難になってきたという状況がその背景にあります。

お互いの得意分野を生かし、不得手な分野を補う、そのために館種を超えて、いろいろな図書館がひとつのネットワークを形成していくことが、ますますこれから必要となっていきます。

これからの名古屋市において、小中学校図書館と名古屋市図書館が連携を進め、さらにはさまざまな図書館と連携の輪を広げ、素晴らしい図書館ネットワークを作り上げていくことを期待し、その最初の一步として、小中学校図書館と名古屋市図書館の連携に、この報告が役立てられることを願って、結びとさせていただきます。